

県育成品種「ぴかいちご」の品種特性に合わせた育苗方法および摘花方法

「ぴかいちご」は育苗期間中の窒素追肥を継続し、1花房あたり5～7果に摘花することで、単価の高い1～2月の大玉果が増加

背景・目的

- ・平成30年に早生・多収で良食味の「ぴかいちご」を育成し、現在、県内で普及推進中
- ・「ぴかいちご」は県内産地の主力品種「さがほのか」とは開花特性や栽培特性が異なる品種
- ・「ぴかいちご」の品種特性に合わせた育苗及び栽培管理技術の確立が必要



成果の内容

○育苗

鉢受け後50日以上でクラウン茎9.5mm以上の苗が適する(図1)
育苗期間中の窒素追肥を継続しても、開花及び収穫開始は遅れない(表1)

○定植後

1花房あたり5～7果の着果制限で、単価の高い1～2月が大玉化(図2)

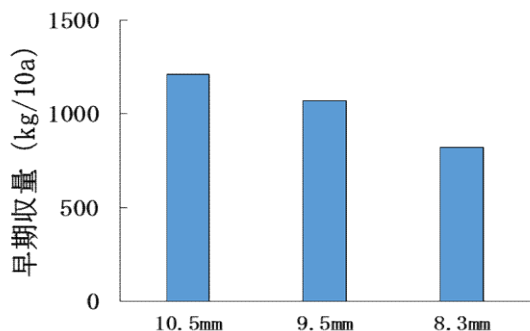


図1 クラウン径の違いによる早期収量(H29年)

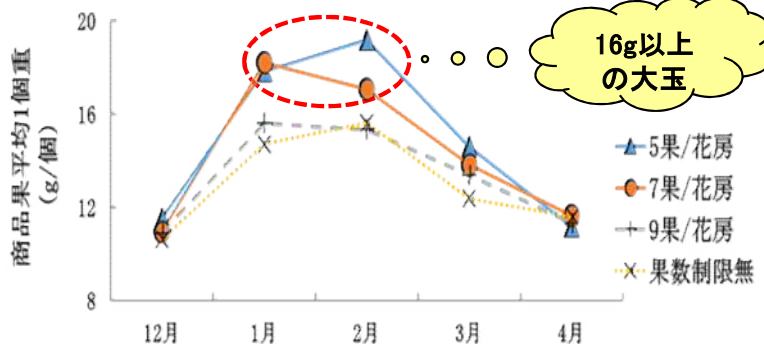


図2 着果数の違いによる時期別商品果平均1個重(R1年)

表1 育苗中の窒素追肥継続の有無による開花開始及び収量(H30年)

処理	定植時のクラウン径 (mm)	開花開始日 (月/日)	収穫開始日 (月/日)	早期収量 (kg/10a)	商品収量 (kg/10a)
追肥継続	10.8	10/31	11/27	1,930	3,655
追肥中断	10.2	11/3	11/29	1,790	3,410

注1) 窒素追肥継続：7月下旬の切り離し後にIB化成S1号を1株当たり1粒施肥。その後、定植まで液肥を施肥。
窒素追肥中断：7月下旬の切り離し後にIB化成S1号を1株当たり1粒施肥。その後の窒素追肥なし。

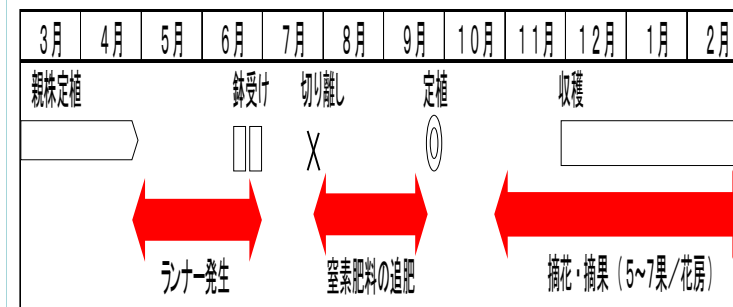
2) 定植日：平成30年9月25日。

3) 早期収量：2月までの商品収量、商品収量：4月までの商品収量。

◎育苗中の極端な肥料切れは、芽なし株の発生を助長するので、窒素追肥を継続

期待される効果

○「ぴかいちご」の品種特性に応じた栽培管理で、収量・所得が向上



○大玉果向上による収穫作業とパック詰め作業の省力化及び収益性の向上



○普及対象・範囲
県内の「ぴかいちご」導入農家

鹿児島県農業開発総合センター
園芸作物部野菜研究室